

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3611610035		
法人名	医療法人 照陽会		
事業所名	笠井病院グループホーム		
所在地	徳島県阿波市阿波町元町7-1		
自己評価作成日	平成24年8月17日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=36</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	平成24年10月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は、利用者や家族との円滑な関係の構築に努めている。利用者一人ひとりが、自分らしく楽しく暮らすことのできる環境づくりに取り組んでいる。事業所は、24時間緊急医療体制のある母体法人の医療機関と連携を図って、利用者の健康管理に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者職員がともに育てたプランターの花や庭でとってきた花を生けるなどして、季節感のある空間となっている。利用者や家族、地域住民から、地域の祭りや行事等に関する情報を得ており、積極的に外出を行うことで地域との交流を図っている。また、利用者は地元の少年野球チームとの子どもたちとの交流を行っている。職員は、利用者へ明るい笑顔で接するよう心がけている。利用者は、歌やゲームを楽しんだり、庭園で育てた野菜を収穫したりしている。利用者一人ひとりの力量に応じて、おやつづくり等を手伝ってもらっている。隣接する母体法人の運営する医療機関と連携を密に図り、利用者が安心して生活することできるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が理念を認識できるよう提示を行い、理念を共有して実践に繋げている。	毎週、月曜日の朝の申し送り時に、管理者と職員間で理念について話しあい、確認しあっている。全職員で理念を共有し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	民生委員の来訪があり交流を図っている。また、地元の祭りや行事に参加し馴染みの関係を築いている。	地元の少年野球チームやボランティア、民生委員、近隣住民等、多くの来訪者があり、利用者と交流を図っている。また、天気の良い日には、近隣を散歩したり、少年野球の応援、地元の行事、お祭り等へ積極的に出かけたりして、地域住民と相互に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の行事に地域住民やボランティアの参加を得ており、交流を図ることで認知症への理解や啓発に取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を開催し、日頃の行事や現状報告を行っている。参加者から得た情報は日々のサービスの質の向上に活かせられるよう努めている。	運営推進会議では、利用者の状況やサービスの実際、取り組み状況等を報告している。参加者から、地域の行事やお祭りの情報を得たり、様々な意見を出してもらったりしている。出された意見や情報について職員間で話しあい、全職員で共有化を図ってサービスの質の向上に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	機会あるごとに市担当者に報告・連絡を行い相談にのっていただいている。	市担当窓口を訪問し、担当者へ事業所の状況を報告したり、連絡事項を伝達したりしている。市担当者に様々な相談に応じてもらっている。また、各種制度の改正に関する情報等を提供してもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の廃止に関する研修会を受講し、支援のあり方について話し合い、安全で自由な暮らしの支援に努めている。	日中、見守りを徹底することで、利用者の安全で自由な暮らしの支援に努めており、玄関等も開錠している。年1回、法人で身体拘束をしないケアに関する研修会を開催している。その後、職員間で話しあって内容の共有化を図っている。また、新聞等の報道や日ごろの気づき等について話しあうなどして、日々研鑽を続けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が高齢者虐待防止の研修を受け、虐待のない介護に取り組んでいる。日中は見守りを徹底し玄関は施錠を行わず、自由な暮らしを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、該当される方はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会を行って理解を深められるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、同意を得ている。不安や疑問点は、その都度お聞きし、納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から思いを把握できるよう努めている。また、家族等の来訪時、要望を聞くようにしている。出された意見や提案は運営に反映できるよう努めている。	家族の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに努めている。日ごろの利用者の言葉や態度などから、思いや希望を把握しよう努めている。出された意見や要望は、ミーティング時等に話しあい、早期段階で運営面へ反映しよう努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は日頃から職員とコミュニケーションをとるよう努めている。出された意見や提案は話し合っ運営に反映するよう努めている。	週3回、医師の往診がある。代表者や管理者は、日ごろから職員とコミュニケーションをとるよう努めている。朝・夕のミーティングや申し送り時には、職員の意見や提案等を把握しよう努めている。代表者や管理者は、現場の声や意見を大切に捉えて運営面へ反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員とコミュニケーションを図り、職員が向上心を持って働けるよう、資格取得や研修の参加への支援を行っている。健康面にも配慮し、年2回健康診断を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は職員が研修を受講する機会をもうけている。技術や知識を身につける事にやり、ケアの質が向上するよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会をもうけ、相互訪問や意見交換を行い、日々のケアやサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の不安や要望をお聞きする事で安心してもらえるよう努めている。また、見学に来ていただき納得していただいたうえでサービスを導入するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の立場に立って思いをお聞きするよう努め、不安が解消できるようにしている。随時見学も受け付けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や家族の思いを受け止めて提案を行い、必要なサービスを提供できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と職員は共に喜怒哀楽を感じるようにし、感謝の気持ちは言葉で伝えるようにして、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時に日頃の状況を伝え、相互に情報交換を行っている。また、本人が不安を感じているときは家族と協力して支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、親類の方の来訪もあり馴染みの人とふれあう機会を支援している。面会に来ていただいた方の事は家族様に報告している。	利用者一人ひとりが馴染みの知人や友達と継続して交流することができるよう、電話をかけた後、声かけを行ったりして来訪を働きかけている。友人の来訪時には、ともにお茶を飲んでもらったり、話をしてもらったりして、居心地の良い雰囲気づくりに留意している。利用者の馴染みの理・美容院へ出かけたり、訪問理容を活用したりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が洗濯物を一緒にたたんだり、団らんを楽しむ等、和気あいあいと暮らしている。職員は利用者同士が良好な関係を築いていけるよう支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も事業所へ遊びに来ていただけるよう連絡を取っており、継続的に関係が維持できるよう取り組んでいる。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活の中で本人の言葉や表情から思いを把握するよう努め、利用者本位の支援を心がけている。	日ごろから、職員は、利用者と接する機会を多くもつよう心がけている。利用者との会話を多くもち、言葉や表情から思いを把握するよう努めている。意思の表出が困難な利用者には、家族や関係者等から情報を得て本人本意に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に情報を得て、これまでの暮らしの把握につとめ、日頃のケアに活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人にとりの生活リズム等の把握や理解に努めている。利用者の心身の状況変化等を全職員が共有し把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者がその人らしく暮らし続けられるように本人や家族の視点にたつて考え、意向や身体状況の変化に対応した計画書の作成に留意している。	日ごろの利用者との関わりのなかで、本人や家族の視点にたつて意見や要望を聞いている。出された意見や要望は、個別ファイルに日々の記録とともに記録し、関係者間で話しあつて、現状に応じた介護計画書を作成している。6か月に1回、介護計画を見直している。また、本人や家族の要望や心身状況の変化に応じた見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別にファイルを用意し、日頃の様子や変化を記録し、職員間で情報を共有し日々のケアや介護計画書の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週3回主治医と看護師の訪問があり健康管理を行っている。本人や家族の状況、要望に応じて柔軟に対応できるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の理・美容師の来訪があり散髪をしていただいている。また、運営推進会議の際、役場職員や民生委員の方と交流する機会をもうけており安心して暮らせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医療機関により医療の受診ができる事を説明し、同意、納得を得たうえで支援している。その他医療機関に受診が必要な方は家族の付き添いのもと受診をしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。母体法人の医療機関以外への診療時には家族を通じて利用者の情報シートを渡し、状態の変化時には双方の医師同士が連絡をとりあい安心して医療が受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の医療機関と24時間連絡をとれる体制を構築している。情報提供を行い適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	母体法人の医療機関へ入院した際は、医療機関関係者と情報交換を行っている。その他の医療機関へ入院となった場合は、母体病院の医師を通じて情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の気持ちに留意したうえで、母体法人の医療機関と連携をはかって対応している。	利用者の心身状況に応じて、家族へ事業所の方針を説明し共有化を図っている。利用者の状態に変化が見られた際には、本人の気持ちを大切に捉えたうえで、家族やかかりつけ医等の関係者間で検討を重ねて支援に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを作成し勉強会を行っている。また、母体法人の医療機関とは24時間連絡できる体制を構築し、早急に対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の立ちあいのもと母体医療機関や電気管理会社の方と避難訓練を行っている。また、事業所独自でも定期的に地震、昼夜想定避難訓練をおこなっている。緊急時の持ち出し袋も準備している。	年2回、消防署の立ち会いのもと、母体法人の運営する医療機関と合同で避難訓練を行っている。また、2か月に1回、事業所単独で日中と夜間を想定した地震・火災訓練等を実施している。近隣の消防団の協力を得たうえで取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損なわないよう、本人の気持ちを大切にさりげない言葉かけや対応を心がけている。	年1回、プライバシーの確保に関する研修会へ参加している。日ごろの利用者との関わりなかで気づいたことは、職員間で話しあうようにしている。職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損なうことのないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるよう声かけを行っている。また、意思表示が困難な方には表情から読み取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの心身状況に配慮した上で、思い思いに過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装は自分で決めていただいている。職員は見守りを行い、支援が必要な方にはさりげなく手伝うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	母体医療機関で管理栄養士の栄養管理のもと調理された物を、ホーム職員が1人ひとりの状態に応じた形態にして提供している。引き膳等は一緒に行っている。	同一法人の運営する医療機関で調理したものを事業所に運び込んでいる。職員は、利用者一人ひとりの状態に応じて刻み食にするなど、食べやすくするための工夫を行っている。また、季節の食材や自分たちで収穫した食材を活用している。利用者と職員でおやつをつくることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	契約時には十分な説明を行い、同意を得ている。不安や疑問点は、その都度お聞きし、納得を得られるまで説明している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけを行って利用者一人ひとりに応じた口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、自尊心に配慮し、さりげなく声かけや誘導を行っている。本人の状態に合わせ紙パンツやパット、ポータブルトイレ等を使用し排泄の自立に向けて支援している。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を活用し、さりげない声かけや誘導を行ってトイレでの排泄を支援している。夜間には、利用者の状態に応じて、紙パンツやパット、ポータブルトイレを使用している。定期的な声かけを行うことにより、トイレでの排泄を大切に支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄パターンを記録し、水分摂取量に留意している。薬を服薬している方もいるが、なるべく自然排便を促すように努め、日中には適度な運動を継続して行えるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	羞恥心や負担感等に配慮し、利用者の希望に応じた入浴に支援を行っている。入浴が困難な場合には清拭や足浴を行って気持ちよく過ごしていただけるよう支援している。	利用者の希望に応じて入浴することのできる体制を構築している。少なくとも週3回は入浴してもらえるよう支援している。寝たきりで入浴が困難な場合には、清拭や足浴、シャンプーを行うなど、利用者一人ひとりが気持ちよく過ごすことができるよう工夫しつつ支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中外気浴や体操等を促し、夜間には安眠していただけるよう工夫している。また、体調に応じ、状態に応じゆっくり休息がとれるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬は個別の保管ケースを使用し職員が管理している。母体医療機関との連携に努め、身体状況などは細かく報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日頃の暮らしの中で、本人の希望に応じて買い物や散歩、レクリエーション、体操等を行っている。各々の利用者の状態に合った気分転換ができるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地元のお祭りや隣町のチューリップ公園等への外出支援を行っている。外出が困難な方も敷地内で外気浴を楽しんだりしている。敷地内でのお花見は、体調に応じて家族様と共に参加していただいている。	利用者一人ひとりのその日の希望に応じて、天気の良い日には散歩を楽しんでもらったり、家族とともに自宅や墓参りへ出かけたたりしている。また、地元のお祭りや初詣へ出かけたたり、隣町のチューリップ公園等へ花見に出かけている。子どもたちの野球の応援等へ出かけることもある。隣接する医療機関の庭で花見を楽しむことがあり、家族や地域住民の参加も得ている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			笠井病院グループホーム 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	殆どの方が家族様が管理されており、必要品も家族が来訪時持って来て下さっている。中には自分で少額のお金を所持している方もいる。たまに買い物に行く際は、家族様に報告し実施している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかける事が困難な場合は通話の支援を行っている。孫等に年賀状を書く方もいるため、利用者の希望に応じて支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をテーブルに飾ったり、共有空間に四季に応じて飾り付けを行い、季節感が感じられるよう工夫している。室内温度も居心地がよく過ごせるよう配慮している。庭には季節に応じプランターに花等を植えている。	玄関前には、利用者と職員で季節の花を植えている。また、金魚やめだかの遊ぶ水鉢を飾るなどして、利用者や来訪者を心地良く迎えるための工夫を行っている。共有空間には、季節の花や手づくりの作品を飾っており、明るい雰囲気と季節を感じる工夫を行っている。台所からは調理の音やにおいを感じることができ、生活感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを配置し、共有空間での自分の好きな場所で自由に過ごしていただけるよう居場所の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具や時計など持ち込んでいただいている。本人が落ち着いて過ごす事ができるよう支援している。	利用者や家族と相談し、使い慣れた品物を居室に持ち込んでもらっている。本人にとって、事業所での暮らしが今までの生活の延長となるよう工夫している。利用者は、衣類入れや時計、写真、散歩時の押し車等を持ち込んでおり、居室でラジオを聞いている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの心身状況を把握し、安全に自立した生活を送る事ができるよう支援している。		